

暑いさなか大勢の方がたにご参列、ご参拝いただきました。また、美須々会館での白井則孔さんの手回しオルゴールによる慰靈コンサートも行なわせていただきました。

松本護国神社での慰靈祭も暑いさなか大勢の方がたにご参列、ご参拝いただきました。また、美須々会館での白井則孔さんの手回しオルゴールによ

る慰靈コンサートも行なわせていただきました。

昨年の長野県ニューギニア会の事業は、会員の皆様方のご協力とご支持をいただきながら計画どおりすすめることができました。紙面を借りまして有り難く御礼申し上げま

す。 昨年の12月は、この冬早々の大雪と寒波に見舞われて大変な年越しとなりましたが、皆様お元気で新年をお迎えのことと存じます。

さて、当会の主な事業になつております現地への慰靈巡拝につきましては一昨年は残念ながら行なうことができませんでしたが、24年度はなんとしても実現したいという強い思いで取り組みました。しかしながら、会員の皆様の高齢化による参加希望者の減少、さらに、パブアニュー

ギニアの5年に1度の総選挙が行なわれることによる政情の見通しが不確実だったことなどで計画の実行に苦慮いたしました。

これら近年における当会単独で企画することの難しさから、1年前の会報10号に掲載

したように、ニューギニアに同実施計画のうち、栃木県護

新年のごあいさつ

長野県ニューギニア会

会長 横田 久



第12号

平成25年1月20日発行
長野市戸隠祖山1175
発行人 横田 久
印刷 神林印刷

国神社との共同計画の推進によってようやく実現することができました。ちなみに、参加希望者は長野県6人、栃木県4人が団体を構成、他の団体の方々との慰靈巡拝は初めてでしたが、参加者の皆さんには喜んで頂くことができ、当会としてもたいへん嬉しいことと思つてあります。

本年も、2月11日に長野県

第44回ニューギニア方面

戦没者慰靈大祭の開催

今年もまた暑い盛りの7月最終日曜日の29日、長野県ニューギニア会主催の第44回ニューギニア方面戦没者慰靈大祭が、松本市の長野県護國神社で盛大に開催された。

慰靈大祭はニューギニアから帰還した戦友の方3名を含め会員90余名が参加、来賓として国会、県会議員をはじめ関係市町村長、県遺族会理事

員で合唱、温かい満足感に包まれて閉幕した。(大久保)

本年度のニューギニア方面慰靈巡拝について、横田会長

は静かに聴き入り、一曲ごとに盛大な拍手が送られた。

フィナーレの「故郷」は全員で合唱、温かい満足感に包まれて閉幕した。(大久保)

また、菅谷松本市長(代読)桜井県遺族会長の慰靈の言葉をはじめ来賓各位からもご挨拶を頂戴した。

これまで幅広いレパートリーを、透き通る澄んだ声でオルゴールの素朴な音色にのせて披露し、会場の会員の皆さん

の姪御さんである白井則孔さんのミニライブコンサートが行なわれた。白井さんは珍しいカード式の手回しオルゴールを演奏しながら、日本古謡、民謡、叙事歌、ポピュラーソングまで幅広いレパートリーを、

唱して閉会となつた。

また、大会参加者の控え室



手回しオルゴールで歌う白井さん

長野県ニューギニア会による現地慰靈巡拝は、参加応募者の減少に加え、本年はニユーギニア国内の政情不安や治安への心配等もあって、実現が危ぶまれていました。

今回、関係各位のご努力により、栃木県護国神社との合同派遣が計画され、長野県内から6名、栃木県から3名、大阪府から1名、添乗を兼てWBC旅行会社の高橋社長さんを含め、計11名で巡拝団が結成されました。

岡谷市から参加の三澤卓夫様におかれでは、出発2週間前に同行の予定だった奥様の智文様が急逝、深い悲しみとお取込みの渦中にも拘らず旅行が中止になることを懸念されて、急遽、奥様の遺影とともに長女の渚様が同行して下さいました。ご冥福をお祈りするとともに、三澤様のご勇断に心より敬意と感謝を申し上げます。

10月27日夜ニューギニア航空直行便で出発、翌朝ボートモレスビー空港に到着しました。ここも行くたびに改築拡張されており首都空港としての風格も備えてきました。ここから国内線でバニモ空港乗換え最初の目的地ウエワクに到着しました。今回の宿泊は中国系のインウエ

ワク・ブティックホテルで4日間の滞在となりました。

日々の主な訪問先について

は、清水秀洋様の報告に出ていますのでご参照ください。

2日目からは各地の戦没地を歴訪、まず、ウエワクの西方の坂東川まで向かいました。

坂東川と並行するように流れる坂井川河口で大阪府の笠

良人様の慰靈。再び東へ戻りながらマリンで三澤袈裟雄様を、ソナム近くの旗山で峯村契子様の父の塚原忠治様を慰

第34回 慰靈巡拝報告

団長 安川叡春



子供たちが駆け寄つて来て、すぐに長野県ニューギニア会の墓柱と故大久保豊氏の卒塔婆を出してきてくれました。全員で黙祷、持参したお土産を渡しました。

次の日は、2台のモーター

ボートでカイカル島と日本兵の捕虜収容所となつたムツ

シユ島へ行き墓標に焼香。

モロネ部落で栃木県の竹澤様

最終日にポートモレスビーの市内観光、首都は現在道路整備とビル建設が盛んです。求職者が集まり、あちこちにバラック小屋が並んでいます。中国からの支援で造られたと思われるサッカーフィールドもいくつか完成していますが、大きく変わりつつあるこの国も多く思われます。ここは昔ながらの生活のようです。

国会議事堂見学のあと、最後にニューギニア戦線で戦死したオーストラリア軍兵士を



の慰靈と、ツマラウジュニアハイスクールの学校訪問。午後は洋展台司令部跡と高射砲陣地跡。その後、コイキン観音様の元で合同慰靈祭を行ないました。周辺から集まる人も少なく、管理の方にも会えず、観音様の周囲の雑草が刈られていないことが気になりました。

マダンに移動した翌日、ウリンガン、ボギアなどの部落を経てハンサ到着。清水昌孝様の慰靈祭を行ないました。

じ戦線で戦死した日本の兵士のほとんどはまだジャングルに放置されたまま、戦勝国と敗戦国との違いとはいえ、あ

祀るボハナ墓地公園に行きました。丘の緑の斜面一面に白い石の墓標が整然と並んでいます。昭和17年11月3日は戦勝記念日とのこと、礼装の人たちが集まっていました。同

じ戦線で戦死した日本の兵士のほとんどはまだジャングルに放置されたまま、戦勝国と敗戦国との違いとはいえ、あ

まりに対照的な風景に深く考えさせられました。

最後になりましたが、栃木県護国神社の稻宮司様には猛暑のなか、その都度正装での御祭礼をして頂き有難うございました。また、綿密な計画と実施の労をとられたWBC高橋社長様に深甚なる敬意を表し報告いたします。

追悼のことば

三澤 卓夫

『父さん、長い間来られなくてごめんなさい。今日、長野県ニューギニア会の慰靈巡回に参加させて頂き、父さんはじめ大勢の英靈の方々の尊い犠牲の上に、今の日本の平和と繁栄があることに對して心から感謝申し上げます。

今日は父さんの一人息子の私と、次女の渚の二人で会いにきました。本当は、私の妻の智文と来て、「これが私の妻だよ」と紹介したかったのですが、実は2週間前の10月14日早朝、突然の心筋梗塞で還らぬ人になつてしましました。65歳でした。嬉しそうに旅の支度をしていたのに…。次女の渚が「私が一緒に



鶴川の近くで写真を供えて法要

二ニューギニアに行きますから」と言ってくれたので念願の旅が実現しました。

私は4人の子供と3人の孫がいます。長男直樹、次男史明、長女有砂、次女渚です。

父さんにとっては孫です。曾孫として長男には優菜と乙葉、長女には紘太がいます。みんな元気で仲良く、出発のときには「おじいさんによろしく」と言つてくれました。

父さんの天国での名前は「光顯院製裟昭雄居士」と言います。慈雲寺の福田住職さ

んに追善法要をして頂き卒塔婆を持ってきました。母さん

のひさゑは、3年前に91歳で亡くなり「玉成院詠月久昌大姉」となりました。先日亡くなつた私の妻は「桂晶院智久妙珠大姉」といいますので、どうか天国で仲良くしてやつてください。そして、残された私たちが平穏な暮らしができますように、また、日本も世界も平和であるように見守つてください。

話したいことはいっぱいありました。父さん、俺たちと日本に、故郷の川岸に一緒に帰ろうよ。さようなら…』

実は、突然の妻の死で気がかり忘れていました。あとで動転、追悼文のことなどすら思つて、もつともつと言いた

いことがいつぱいありました。が、南の島で慰靈ができて私の60年間の胸のつかえが少し和らいだ氣がしております。

今回、戦没地マリンに続く鶴川の小石を記念に持ち帰りお墓に供えることができました。父さんにしては孫です。曾孫として長男には優菜と乙葉、や団員の皆様方にはたいへんお世話をになりました。また、妻の逝去に際しては弔電を頂きましたこと心より御礼申し上げます。有難うございました。

お世話になりました。また、妻の逝去に際しては弔電を頂きましたこと心より御礼申し上げます。有難うございました。

お世話になりました。また、妻の逝去に際しては弔電を頂きましたこと心より御礼申し上げます。有難うございました。

ニューギニアを想う

峯村 契子

真っ青な空、澄み切つた深い海、椰子林、あどけない瞳の子供たち、何回訪れても変わらない南の国の風景に、なぜここで戦いが…といつも思ひます。どうか天国で仲良くしてやつてください。そして、残された多くの人の血は、忘れ去られようとしているのでしょうか。

暑い陽射しの中で栃木県の宮司様による心込めた供養の慰靈祭が各所で行なわれ、私たちの心も安らいだ時間でした。心より感謝申し上げます。

遠く暑いこの地から父たちは帰りたかったことでしょう。残されたわずかな意識の中で、雪降る故郷を、家族を思い、悲しみの涙を流しながら命を終えたのだろう…とそんなことを考え続けた慰靈の旅でした。

清水 秀洋

25年前、初めて訪ねた時の感動や父への思いは忘れることはありません。美しくゆつたりとした国でしたが、いまは生活の変化からかゴミの多さには驚きました。変わらずを得ない時代ですが、わずかに残された鉄兜や水筒、高射砲、飛行機の残骸などに戦争の姿が残っていました。

前回は、平成3年の第15回慰靈巡回で「大久保豊会長、海野仙巖団長」のもと28名でした。今回は栃木県護國神社の稻宮司様に慰靈祭を執り行つて頂く旅となり、護國神社のお加護、そして、英靈の御靈に守られて全員無事帰

父に抱かれた私、一枚だけの写真



南の島ニューギニア島に第34回慰靈巡回参加の記

もありました。ご一緒にさつた皆様の暖かい心遣いやお助けで無事帰国することもできましたことを心より御礼申し上げます。

慰靈巡回の旅がこれからも長く続き、より多くの方々が現地へのご参拝を願い、祖国に還れなかつた英靈のご冥福を祈りながら旅の報告とさせていただきます。

合掌

25年前、初めて訪ねた時の感動や父への思いは忘れることはありません。美しくゆつたりとした国でしたが、いまは生活の変化からかゴミの多さには驚きました。変わらずを得ない時代ですが、わずかに残された鉄兜や水筒、高射砲、飛行機の残骸などに戦争の姿が残っていました。

生き残った戦友や家族の生き残った戦友や家族の思

いを託して建立された慰靈碑を父のもとへ送り届けなければ、との思いで頑張った旅で

